

2010年度(平成22年度)

事業計画

2010年(平成22年)3月31日

学校法人 上智学院

はじめに

学校法人上智学院が設置する各学校は、2013年(平成25年)に大きな節目を迎えます。即ち上智大学創立100周年、上智短期大学創立40周年、上智社会福祉専門学校創立50周年であり、「グランド・レイアウト」はこれを視野に入れ2001年(平成13年)に策定されたものです。

2010年度(平成22年度)はグランド・レイアウトの第2期最終年に当たります。これまでの9年間で多くの計画が実現された一方で、グランド・レイアウト策定当時とは経済的にも社会的にも背景が大きく変化し、高等教育機関を取り巻く環境も激変しております。中央教育審議会においても、大学教育の質保証の仕組み、進展するグローバル化の中の国際競争力の向上とともに、18歳人口の減少への対応などが検討課題になっております。本学院においても、単に経済や高等教育を取り巻く厳しい状況への対応といった目先の問題解決にとどまらず、これまで本学院が蓄積してきた叢智をさらに磨き、「世界」と「将来」を見据えた上で、グランドレイアウトを見直しつつ、社会的、時代的要請に積極的に対応してまいります。

こうした状況を踏まえ、2010年度における本学院の事業計画を策定しました。本事業計画は、大きく4つの項目から構成されています。第1項目では、「上智学院全体の重要課題」を挙げ、それらを実現するための事業計画として、第2~4項目においては、「教育・研究に係る重要課題と事業計画(上智大学、上智短期大学および上智社会福祉専門学校)」、「管理運営の重要課題と事業計画」、「2010年度予算の概要(経常予算・特別予算)」を述べております。

2010年は、上智大学の初代学長であるヘルマン・ホフマン先生が来日してからちょうど100年の節目の年となります。本学院は、2010年度(平成22年度)を、上智大学創立100周年[2013年度(平成25年度)]以降における新たな展開と、これを実現する「転換点」の年として位置付け、先哲の志を受け継ぎ、教職員一丸となって建学の精神並びに教育の精神のもと、新たな挑戦を続けていきます。

．上智学院全体の重要課題

- 1． 2010年度(平成22年度)以降に必要な基盤整備、環境整備に係る「重要課題」等
 - (1) 新キャンパス整備の推進と、新構想に基づく教育組織の新・増設を進める。
 - (2) 学校法人聖母学園との合併による新たな学部(学科)及び研究科(専攻)における教育研究活動、及びこれに伴う他学部、他研究科との関連性の向上、並びに相互の発展を図る。
- 2． 2010年度(平成22年度)当年度に展開、あるいは実現を目指す「重要課題」等
 - (1) 社会からの本学院の教育、研究活動に対する新たな要請、並びに本学院の新たな可能性の展開や拡大に向けて、大学間連携や高校連携、さらには地域や自治体などとの連携も積極的に進める。さらには、大学院教育における個性化、高度化に向けた諸施策を展開する。
 - (2) 国際化への取組を新たな段階に進め、大学、短期大学、社会福祉専門学校の各組織並びに学生、教職員等すべての構成員のグローバル化対応能力(グローバル・コンピテンシー)を伸展させるために諸施策を展開する。
 - (3) 少子化、あるいは国際化に対応する学生募集計画や留学生受入計画、教育の質的向上を目指す授業や学習方法の改善計画、経済的支援、就職・進路支援、並びに国家資格取得支援等の学生支援など様々な計画、さらには社会人講座や公開講座の提供を含めた生涯教育の諸計画を策定し、これを着実に進める。また、同時に学士課程の質保証として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを明確化する。
 - (4) 卒業生初め様々なステークホルダーとの連携を強化し、新たな広報活動やサービスの展開を図る。
 - (5) ICT(情報コミュニケーション技術)を活用した教育研究の高度化を進めるとともに、その研究成果を世界に発信することによって国際的評価の向上を目指す。また、そのために必要な設備、並びに運営する人材に積極的な投資を行う。
 - (6) 授業料の安定的な確保と国庫補助金等教育研究改革のための競争的資金の積極的な獲得に努めるとともに、第三の財源たる運用投資による資金の確保についてもこれを安定的に進め、財政基盤の充実を図る。

・教育・研究計画に係る重要課題と事業計画

1. 上智大学

教育面では、教育のさらなる質的向上を目指し、授業・学習の方法や環境の改善を最優先し、先端的な技術や機器の導入を促進するとともに、教員や学生への支援を行います。

研究面においても、国際的な評価を得る研究成果の創出、国際的な研究交流ネットワークの拡張、国際社会に向けた本学の研究成果の発信に重点を置く取組みを実施します。

学生支援面においては、グランド・レイアウトの基本的方向と姿勢である「教育研究を通して世界人類の平和的発展のために役立つ人材の養成」、教育理念に基づく「自分で考え、決断する能力を養う」に則り、2010年度も「教育研究に関わる学生支援体制の確立」に向け継続して取り組むこととします。

2009年度に、文部科学省の国際化拠点整備事業(グローバル30)に採択されたことに伴い、2010年度も引き続き、事業計画を実施するために、全学的な取組みを推進するとともに、本学の教育の目標を達成し、世界に有為な人材を輩出することを目標とし、大学、学生、教職員等すべての構成員がグローバル化対応能力(グローバル・コンピテンシー)を伸展させるため諸施策に継続して取り組めます。

さらに、聖母大学との合併に伴う学生や教員の受入れに向けて、カリキュラム、学事日程、学籍情報の移管、各種会議体への受入れ、学生支援に関する諸問題等の課題を検討し、その解決を図り、スムーズな受入れ環境を整備するとともに、教育研究系情報処理環境の整備、図書館学術情報管理、研究支援体制、国際連携活動等の課題について順次取り組むこととします。

重要課題と事業計画

(1) 教育の質的向上

聖母大学との合併による受入れ体制の推進

教育イノベーション・プログラムの拡充整備

語学教育の見直しによる教育の方法・内容の改善と初年次教育や導入教育の検討

教育支援センター(語学教育研究センター、FDセンター)の設置の検討

大学院教育の個性化・高度化に向けた施策の検討(学院構想、会議体再編)

(2) アドミッション・ポリシーの明確化

入試制度改革の推進(継続)とTEAP(アカデミック英語能力判定試験)の開発

イエズス会系高校・カトリック高校等高大連携(泰星学園との教育提携プログラム実施等)のさらなる強化

海外版推薦入試制度の検討

(3) 教育研究環境の改善

多様なメディアに対応しうる教室AV設備の強化

学部授業科目の社会人への開放拡大と生涯学習ネットワークの形成

TA制度の見直しによる授業支援強化

中央図書館の機能強化と新たな学習環境の整備

研究機構常設研究部門の統合とグルーピングの継続及び附置研究機関(キリシタン文庫、モニュメント・ニポニカ、アジア人材養成研究センター等)の体制整備

研究成果の様々なツールを活用した積極的公開

競争的外部資金等獲得の促進及び研究活動環境の整備

(4) 国際化の推進

新たな留学生受入方針(アドミッション・ポリシー)の策定と学内体制の整備

留学生支援センター(仮称)の設置

大学院新英語コース及び学部新英語コース設置の検討

日本語教育センター(仮称)設置の検討

サマー・セッション開講期の拡大の検討

- (5) 経済的支援制度の整備・拡充
 新たな奨学金制度創設と既存の奨学金制度見直しによる経済支援制度の整備と拡充
 (学生支援・ホフマン特別奨学金、「創立100周年記念奨学基金」による奨学金制度の推進)
 留学生の修学を保障する奨学金制度の拡充
- (6) 課外活動の活性化及び課外教育プログラムの推進
 課外活動団体活性化を促進する支援策の基盤整備
 ボランティア・ビューローの事業内容拡充と社会貢献活動の推進
 AJCU-EAO サービスラーニング・プログラムの実施
- (7) 学生生活環境の整備
 外国人留学生を含む学生寮の確保
 学生の心身の健康維持、増進の諸方策のさらなる推進
 枝川寮の学生寮機能と安全管理強化のための設備整備
- (8) 就職支援およびキャリア形成支援の充実
 就職支援およびキャリア形成支援の充実
 外国人留学生等グローバル化に対応した就職・キャリア形成支援の実施

2. 上智短期大学

短期大学を取り巻く環境は入学状況を見ても年々厳しさを増しています。あわせて教育の質の問題についてもユニバーサル期を迎え、学生の基本的な資質、あるいは学習歴についても多様化してきており、こうした学生を受け入れる大学側も大きな転換期を迎えているといえます。この転換期において原点に立ち還り、短期大学の使命を踏まえ、教育・研究のさらなる発展と充実を目標に掲げて、2002年にスタートした大学改革を、学長のリーダーシップのもと、2010年度も引き続き推進し、「夢を応援する大学」としての実質をさらに高めるよう次の課題に取り組みます。

重要課題と事業計画

- (1) 教育・学習支援の強化
 図書館利用環境の整備
 教室のA V環境の整備
 英語科学習支援室の整備
- (2) 学生支援の強化
 サービスラーニングセンターの機能充実による総合的な学生支援体制の確立
 就職支援の強化と充実
 音楽練習室の新設
- (3) 管理運営における重要課題と事業計画
 危機管理体制の整備
 広報活動の強化
 エコキャンパスの推進とキャンパス内サインの充実

3. 上智社会福祉専門学校

社会福祉の世界にあって諸環境の厳しい中、「人間の尊厳を追求する社会福祉教育の実践の深化」、また、「人の一生をトータルに支える視点からの高度専門職業人の育成の強化」を目指し、使命感をもって活躍する人々の育成と支援を使命としています。併せて、日本社会の福祉政策・行政・現場を見極めつつ、2010年度は、福祉関連法令の改正に沿った改善・改革に取り組みます。また、福祉サービスの需要が高まるにも拘らず社会福祉職に携わる人口が減少し、かつ、100年に一度と言われる不況が加わる中、安定性・将来性の確保に向け引き続き努力し、次の課題に取り組みます。

重要課題と事業計画

- (1) 国家資格取得のための指定養成機関としての充実
 - 社会福祉士・児童指導員科の改善・改革及び介護福祉士科の抜本的見直し
 - 新たな介護福祉士養成課程開設の検討と準備
 - 精神保健福祉士法の新カリキュラム等に基づく精神福祉士課程の改善・改革
 - 保育士養成施設設置基準等に基づく保育士科の改善・改革及び抜本的見直し
 - 保育士科、社会福祉士、児童指導員科、及び介護福祉士科における新カリキュラムの開発
 - 実習施設の開拓、実習施設との連携に基づく実習プログラムの充実・開発の準備
 - 介護技術講習会及び国家試験対策講座の充実と実施
 - 社会福祉士・児童指導員科及び精神保健福祉士過程における新カリキュラムによる国家試験対策模擬試験の実施と国家試験対策講座の充実
 - 入学者の安定確保のための学生募集活動の強化
 - 学生への経済・就職等各種援助の充実

- (2) 総合的・専門的・継続的高等教育研究機関としての充実
 - 「上智社会福祉高等教育・研究センター」設立検討
 - 介護福祉士資格者への専門的・総合的・継続的教育の充実・実施
 - 上智大学の学部・大学院との連携強化
 - 保育士有資格者及び社会福祉士有資格者を対象とする専門的・総合的・継続的教育の新規開発検討
 - 自治体等との連携による講座・研修・行事等の実施

- (3) 教育・業務環境の充実
 - IT環境を初めとする教育・研究設備の整備・充実
 - 事務センター業務の効率化

．管理運営面における重要課題と事業計画

1. 総務

ガバナンス・内部統制、危機管理、コンプライアンス、USR（大学の社会的責任）、上智ブランドの確立などの推進と実現に向けて、具体的方策を立案、実施します。様々なステークホルダーとのコミュニケーションをその中心に置き、特に、危機管理、情報管理、校友会（特に、在校生の父母、卒業生、地域等）、第三者評価（含む、様々な学外評価）など、上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校と社会との結びつきに配慮します。また、国際化対応（学内・学外）を推進し、着実に実現を図ります。

監査については、「監事」、「公認会計士」、「内部監査人」における三様監査の効果的監査とリスク管理評価を行うとともに、監事監査、公認会計士監査の具体的な支援体制の構築、また内部監査における中長期的監査計画を実施するとともに、教学監査についても検討します。

教育研究環境整備並びに学生支援環境整備のなお一層の充実を図ることを目的として、具体的方策を立案、実施します。

現在の四谷キャンパスは、学生収容定員からみて、校地面積が充分とはいえないことから、新キャンパス用地の確保を目指します。新キャンパスと四谷キャンパスとの連携を図りつつ、本学の更なる発展と躍進を目指します。

2008年度から進めている「大大連携」「高大連携」についても、本学の教育・研究の可能性をさらに拡大する観点から、これを継続して推進します。

2011年度からグランド・レイアウトの第3期が始まりますが、2010年度は第3期の準備期間となります。第3期においては、第1期、第2期で実行された企画のフォローアップと、法人と教学のそれぞれの経営支援の強化等に取り組みます。

重要課題と事業計画

- (1) ガバナンス・内部統制関連
学院文書全般（規程を含む）の体系的整備の継続と英語化対応（サインを含む）の推進
男女共同参画の推進
認証評価機関（財団法人日本基準協会）による認証評価のフォローアップの実施
- (2) 危機管理
「リスクマネジメント委員会」を中心とした「安全」「安心」なキャンパスの推進
- (3) コンプライアンス関連
行動倫理基準、社会貢献の遵守等の環境整備
- (4) U S R（大学の社会的責任）、ブランド確立関連
USR（大学の社会的責任）活動の具体的推進
校友会（特に、在校生の父母、卒業生、地域等）活動の推進
広報業務の積極的強化（公式ホームページの運用強化）
Sophia（上智）ブランド商品の開発と販売ルートの確保
- (5) 監査関連
監査体制の充実と推進
資産運用管理規程に基づく資産運用の実行と監視体制の整備
情報システム監査の実施
- (6) 新キャンパス計画の推進
施設基本計画策定スケジュールの確定と計画的な施設設備の実施
- (7) 「大大連携」「高大連携」の推進
聖母学園との合併による新たな看護教育の展開の推進
高大連携のさらなる推進
- (8) 教育研究環境整備及び学生支援環境整備関連
プロジェクト研究施設、教室設備の整備
学生に魅力あるスペースの提供
利用者の利便性に配慮したWebを利用した施設予約システムの更新
- (9) 上智大学創立 100 周年、上智短期大学創立 40 周年、上智社会福祉専門学校創立 50 周年記念事業の推進
- (10) エコキャンパス推進の検討と実施

2. 人事

大大連携や高大連携、また、学部学科の再編成にかかる構想を視野に入れて、将来にわたる人事計画を策定し、本学院の教育研究計画に反映させることが必要です。

また、人事計画の策定にあたっては、人件費の推移を中長期的に見極めて、財政計画に反映する必要があります。なお、その際、他の私立大学に比べて高い水準にある人件費依存率の改善を図ることも、重要な要素となります。

重要課題と事業計画

- (1) 教員関係
各学部学科等の専任教員数の全面的見直し
専任教員人事制度見直しの推進

非常勤教員の定員数、採用基準等の策定の具体的な検討着手
授業担当時間制度の改善

(2) 職員関係

職員採用計画の策定

職員の育成と人材確保の方策策定、実施

(若手職員自己啓発奨励金制度 [仮称] の設置ならびに実施)

職員人事制度の問題点抽出と適切運用

時間外勤務の縮減に向けた具体的な施策の実施

3. 財務

近年の金融危機により、学校法人の財政運営も影響を受けており、本学院も、2008 年度（平成 20 年度）決算において、学校法人会計基準に基づき、運用資産（保有有価証券）の評価替えを行い、財務内容の適正化を図りました。2008 年度末以降も経済環境は、依然厳しい状況が続いています。

本学院の教育研究活動を遂行する上で、学生生徒等納付金、補助金といった基本的収入の不足を補ってきた、寄付金収入、資産運用収入並びに事業収入は、このような経済情勢の中、これに過度に期待することが難しい状況にあります。しかし、激しさを増す大学間競争の中で、各大学は生き残りをかけた差別化をはかっており、奨学金の充実など教育研究経費の負担が増す一方で、施設設備のリニューアル等、設備投資の負担も益々増大しています。

このような状況下、財務部門の課題である「学生納付金・補助金・寄付金・収益事業計画及び財政計画を樹立し、新しい財政基盤を整備する」ことは、その必要性和重要度がますます増しており、財政構造の転換実現が強く求められてきています。

財務部門のもう一つの課題である「キャンパス・ライフの環境条件を整備充実させる」ことも、その実現に向けてキャンパス計画との連携を密にしながら、四谷・市谷・石神井・秦野等の各キャンパスでの開発計画を総体的に検討し、計画遂行における無駄を無くすべく優先順位づけを行います。

また、新キャンパス整備の進捗に合わせた適切な財務計画を策定することとします。

重要課題と事業計画

(1) 財政計画に基づく計画の実行と財政基盤の整備等

中長期計画に基づく本学院の財政力に見合う計画の実現

学院ステークホルダーとの連携強化による募金活動の持続性の維持強化

創立 100 周年記念事業推進委員会との連携を密にした募金活動の展開

新たな資産運用体制・運用方策の構築と実践による安定的かつ着実な運用収入の確保

収益事業用ビル建設を含む事業拡大の具体化着手

固定費の見直しと適正価額による経費削減への取組み実施

財務情報の公開内容の充実

(2) キャンパス・ライフの環境条件の整備充実

耐震補強工事計画に基づいた工事の実施

防災・防犯体制の強化による安心安全なキャンパスの構築

省エネ・エコ活動の推進

各キャンパスのアメニティースペースの環境条件整備と充実

真田堀運動場の環境整備

受動喫煙対策の強化

. 2010 年度予算方針と計画の概要

本学院の重要課題と事業計画については、 において教育・研究面に関わるもの、 において

管理運営面に關わるものについて説明しましたが、それらを具現化するためには適切な予算措置を必要とする計画も含まれています。計画実現に必要な予算を含めた学院全体の予算措置にあたっては、数度にわたる財務委員会における審議を経て、常務会・理事会の決定による2010年度予算編成大綱に基づき、限られた財源の重点的使用および支出削減を基本とする予算を編成いたしました。

以下、2010年度予算の概要を經常予算と特別予算とに分け、それぞれの具体的措置を説明します。

1. 經常予算（毎年の事業継続に必須の維持費等）の具体的措置

（1）収支の均衡

消費収支全体では、上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校の各経理単位は、予算の編成において消費収入と消費支出の均衡を図るよう努めることを基本方針とします。

（2）人件費

上智学院の消費収支計算書における人件費比率を、同規模法人の平均値に近づけること、そしてその値を中長期的に継続することを目標とし、引き続き、教職員給与の改定等を十分に考慮に入れた上で、総額で可能な限り人件費を抑制します（人件費総額112億円）。

（3）研究費

上智大学専任教員各個研究費・大学院研究費は、2009年度予算と同額据置きとします（各個研究費総額190百万円）。上智短期大学各個研究費は、2009年度予算と同額据置きとします（総額5.9百万円）。上智社会福祉専門学校各個研究費は、2009年度予算と同額据置きとします（総額1.2百万円）。

また、上智大学学内共同研究費、上智短期大学学内共同研究費は、2009年度と同額据置きとします（総額35百万円）。

（4）学部予算

学部予算（学部学科の運営に係る予算）は、2009年度予算と同額（435百万円）とします。

（5）大学院共通費

昨年度増額した大学院共通費は、2009年度予算と同額（5百万円）とします。

（6）教育イノベーション・プログラム

2009年度から、上智らしい教育を推進したり、教育内容や方法の改善向上によって教育の質を高めたりするなど、教育の活性化や発展に寄与するため「教育イノベーション・プログラム」を新設し、教育の改善・発展・改革を促進する企画の学内公募に基づき、上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校の各申請に対し予算の措置をしています。2009年12月には、プログラムの中間成果報告が行われ、当初の目的が着実に果たされていることを公表いたしました。2010年度はプログラム開始2年目にあたることから、継続分に加え新規の公募を見込み、2009年度の倍額の予算を措置します（総額22百万円）。

（7）奨学・奨励制度

上智大学創立100周年記念事業募金、上智短期大学創立40周年記念事業募金、上智社会福祉専門学校創立50周年記念事業募金への寄付を原資とする奨学・奨励基金を新たに設定し、寄付、基金を基に奨学・奨励金給付予算を措置します。

なお、現在の我が国の経済状況および雇用状況に鑑み、本学教職員の2009年度冬期末手当予算の一部を財源として、上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校に在籍する学生を対象とした新たな「学生支援・ホフマン特別奨学金」制度を創設します。この奨学金制度は、キリスト教ヒューマニズムに基づき「Men and Women for Others, with Others ~他者のために、他者とともに生きる~」という教育精神を掲げる本学の教育理念を実践する教職員の思いが込められた制度です。

2010年度から運用の始まる奨学・奨励制度

学生支援・ホフマン特別奨学金	約1200万円
留学生特別奨学金	835万円
伊藤鎮奨学金	30万円
吉彌・愛琳アイルランド留学奨励費	30万円

2010年度から運用を予定している奨学・奨励制度（名称は仮称）

ドイツ語教育関連奨学金
理工学部（理工学研究科）奨学金
伊藤忠商事 / 留学生のための奨学金
母子家庭奨学金

その他の支援制度

枝川寮寮費補助制度

（8）環境問題への対応

地球環境問題に関わって、「エコ」が大きなテーマとなっている現代、二酸化炭素の排出量を削減することは本学のような大きな事業所では避けることができない問題であり、かつ教育研究機関として率先して取り組むべき課題となっています。さらに、改正省エネ法並びに東京都環境確保条例における温室効果ガス排出総量削減義務制度への対応も必要となります。このような状況を受け、光熱水費予算は総額で2009年度予算と同額以内を目標とします。（2008年度決算455百万円、2009年度・2010年度予算464百万円）

（9）運営部門等の予算

学部等予算、研究費予算以外の運営部門等予算については、2009年度と同額とします。また、予算執行にあたっては必ず複数の見積もりを取るなどして、極力、実支出額を抑制することとし、予算の計画的な執行に努め、年度末に予算額の大半を消化するといったような事態は避けることとします。特に、物品の購入費、システム関係経費は再度内容の見直しを行い、支出の増額を極力抑制するものとします。

2. 特別予算（当年度固有の事業及び新規事業に係る費用）措置の概要

本学院の事業計画に沿った資金面での重要課題は特別予算として決定され、その主な事項は次のとおりです。（金額単位：千円） 表中の数字番号は、前述に対応

- 1 上智大学 / (2) アドミッション・ポリシーの明確化	
入試改革の推進経費	5,980
- 1 上智大学 / (3) 教育研究環境の改善	
大教室AV設備更新経費	未定
図書館学生貸出用ノートPC等整備経費	5,986
石神井分館所蔵図書整備経費	41,889
大学院生研究室の施設・設備改善経費	未定
研究機構常設研究部門の事務・図書スペース改善経費	未定
補助金受給終了後の継続プログラムの実施	

・理工学部科学技術英語教育実施経費	2,810
・法科大学院「国際仲裁・ADR」授業実施経費	3,400
・グローバル・スタディーズ研究科オンラインジャーナル、ワークショップ・シンポジウム、グローバルスタディーズコンソーシアム運営経費	2,954
・心理学専攻心理学研究者の総合的要請プログラム経費	2,214
キリシタン文庫資料のデータベース追加・継続経費	3,471
情報環境整備経費	185,121
- 1 上智大学 / (4) 国際化の推進	
外国人のための日本古典学研究必携刊行経費	840
- 2 上智短期大学 / (1) 教育・学習支援の強化	
図書館蔵書検索システム、ブックディテクションシステム導入経費	17,594
教室マルチメディア化経費	3,000
情報環境整備経費	13,000
- 2 上智短期大学 / (2) 学生支援の強化	
サービスラーニングセンターの教育活動拠点経費	4,550
- 1 総務 / (4) USR、ブランド確立関連	
学校法人聖母学園との合併及び入試改革推進に係る情宣活動	5,000
- 1 総務 / (6) 新キャンパス計画の推進	
四谷、市谷キャンパス再開発基本計画・設計料	未定
- 1 総務 / (7) 「大大連携」「高大連携」の推進	
学校法人聖母学園との法人合推進経費	未定
- 1 総務 / (8) 教育研究環境整備及び学生支援環境整備関連	
教室の机・椅子入替え / 紀尾井坂ビル	18,375
四谷キャンパストイレ改修 / 3号館東側	未定
- 1 総務 / (9) 記念事業の推進	
創立100周年記念事業	
(大学部門)	
・「ソフィアのこころ(仮題)」出版	2,500
・病院コミュニケーション・ボランティアシステムの構築	85
・社会改良プログラム	1,265
(短大部門)	
・音楽練習室の新設	20,748
(3校共通部門)	
・上智高校生講座 Veritas	560
・創立100・40・50周年(大学・短大・社専)街頭旗製作	750
- 2 人事 / (2) 職員関係	
職員の人材育成と意識改革の推進	3,000
- 3 財務 / (2) キャンパス・ライフの環境条件の整備充実	

ホフマン・ホール整備（第10期）	25,000
四谷キャンパス耐震補強・防水・外壁補修工事（第4期）	615,075
3号館冷凍機等更新工事	147,000
秦野キャンパス構内サイン設置	2,210
秦野キャンパス環境への配慮経費	2,500
秦野キャンパス建物防災設備更新工事	15,430

結 び

学校法人上智学院（上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校）は、教育・研究を取り巻く厳しい環境の中、さらなる充実発展を図るため日々の努力を重ねています。

グランド・レイアウトを通して試行錯誤の中で確立された「恒常的な自己変革体制」を実現すべく、2010年度もさまざまな新たな挑戦を続けます。2009年度においては、グリーンケア研究所の移管、泰星学園との教育提携、教職員人件費の一部を財源とする「学生支援・ホフマン特別奨学金」の設置等、必ずしも年度当初に計画されていなかったものも実施・実現に向け準備を進めています。

激動する時代の中で、柔軟に対応しつつも、“Men and Women for Others, with Others”（他者と共に、他者と生きる）の教育精神を決して忘れることなく、教育活動、研究活動並びに社会貢献、国際貢献それぞれを質量ともに向上させ、日本そして世界の発展に寄与する人材を育て、「世界に並び立つ大学」に進化することを目指しています。

以上